

お寺の子ども会 西教寺蔵本通支坊 2014.10.12 呉市中央 7-7-13 Tel 21-2798 E-mail:nikkou@saikyoji.net

西教寺蔵本通支坊 2014.10.12 呉市中央 7-7-13 Tel 21-2798 E-mail:nikkou@saikyoji.net



深い心・粗末な心

浄土真宗は、日々のお念仏と、仏法聴聞（教えを聞く）ことが大切な教えです。

少し前、お寺の法座で姥捨て山の話の話を聞きました。昔の日本は食糧事情が悪く、生まれた子を間引いたり、親を山に捨てに行っていた、そんな国だったそうです。

昔ある息子が、お母さんを背負って山に捨てに行つたそうです。道中、おぶさつたお母さんが、時々思い出したように木の枝をポキッとポキッと折るのだそうで、息子は、「お母さん、何をしているのだろう、もしかして捨てた後、戻ってこようと思つているんじゃないだろうか」といぶかります。

そうこうするうち、いよいよお別れの時が来ました。おぶつたお母さんを降ろし、「お母さん、今まで育ててくれてありがとう、それじゃあ帰るからね。」と言うとお母さんが息子に言いました。

「お前、こんな山奥まで入ってきて、ちゃんと二人で帰れるのか？ 私が



道中木の枝を折つておいたから、それをたよりに、間違えずに戻るんだよ。」と。

私は、その話を聞いて、こんな深い生き方、人生の送り方があるんだなあと思いました。今から自分が餓死せねばならないのに、まだ誰かの心配をして「お前大丈夫かと」いう、私も人の親ですが、足下にも及ばないと思いました。私なら

大騒ぎをして「何をするか！訴えてやる」とか言いそうです（笑）。

それに比べると息子の方は、まだ心が薄っぺらくて、お母さんが万感の思いで木の枝を折っているのに「お母さん、帰つて来ようとしているんじゃないだろうか」としか思えません。まさに私の心、生き方です。お世話になつても他人様の心も分らず、当たり前だと思ひ、さらに迷惑ぐらいにしか思わない人生、まさに粗末な心です。

現代は、物は豊かになりましたが、私たちの心はいよいよ薄っぺら、お粗末になつてはいないでしょうか。

「ありがとう」とは「有ること難し」、私には及びもつかない深い心をいただ時、その心に気づいた時に言える言葉だと思ひます。「当たり前・迷惑」としか思えない

粗末な心では言えない言葉です。

仏法を聞き、お念仏し手を合わせて生きるとは、自分のお粗末さに気づかせてもらつて、このような深い人生、深い心を教えていただき生きてゆくことだと思います（ちなみに、社会福祉や行政の貧困を問題にしないでいいと言っているではありません）。



次回、お寺の子ども会は、11月9日（日）9時～10時です。また、「報恩講ほとけの子の集い」が12月25日（木）に決定。ご予約下さい。